



通信



VOL.19

令和3年3月1日

作成：長岡 正宏

Make Love 愛し合おう Not War 戦うんじゃないで

John Lennon

道心探求

「天使の声」をご存知ないだろうか。中世ヨーロッパでは、聖書の教えにより女性が教会で歌うことを禁じられており、変声期を迎えていない男子が合唱していた。聖歌を合唱していると、歌っている人たちの音より本来聞こえるはずもない遙かに高い音程の響きが、バロック建築の教会で天から降ってくるように聞こえることが時々あった。この現象を「天使の声」と呼ばれ古来より神秘的に語られている。透き通るような混じりっ気のない高音である「天使の声」は、いわゆる「倍音」だ。洗練された合唱団が一つになり教会という建物まで一体化した証かもしれない。

「エントレインメント」をご存知ないだろうか。生まれてすぐの赤ちゃんが母親と寄り添っているとき、母親の心拍が急に早くなると赤ちゃんもシンクロして早くなっていくという現象のことを指す。母親が落ちていって心拍が穏やかであれば、赤ちゃんの心拍、呼吸も穏やかになる。「エントレインメント」とは、目に見えないもので結びついているという意味で、触れている場合はもちろんのこと、全然触れていなくても近距離にいるだけでシンクロすることもある。また、他人でもシンクロするといわれている。お互いの信頼関係、安心感が重要なかもしれない。まさに「絆」あるいは「愛」の力ともいえるかもしれない。まだ、解明されていないが、心臓からの電磁波が影響しているのではないかとわいている。心電図が示すように人体で一番強い電磁波を放出するのは心臓だ。

開祖は「波が打ち寄せるように、二人でひとつの呼吸をするんじゃないよ」と西尾昭二師範に語っている。音も心拍も呼吸も電磁波もバイブレーションである。すなわち「波」だ。「愛」も「結び」も「波」かもしれない。毎日、呼吸法を行って心身を練り強力な「波」を起こそうではないか。その「波」で、相手と一つになり、混じりっ気のない純粋かつ簡素な技が、行えるようになるのではないだろうか。きつと、その技は痛みもなく「愛」も「取」も心地良い技になっているはずだ。

【意識して息をしよう】

「終りの呼吸法」稽古の最後に行う呼吸法
心と体を整え、気を充実させて、自分を磨く。
(ワンポイントアドバイス参照)



① 下腹部の前で手を合わせる



② 指先を上に向けてながら息を吐く



③ 両手を真っすぐ上げていく



④ 中心線を意識して息を吐いていく



⑤ 真上を見て気道が垂直になるように



⑦ 呼吸・意識・気を無限に広がっていく



⑧ 腕が水平になったら息を吸い始める



⑨ 呼吸・意識・気を自分の中心を見つけて自覚する



⑩ 呼吸・意識・気を丹丹に集中させる



⑪ 呼吸・意識・気を丹丹に集中させる



⑥ 手を開き意識を広げていく

①から⑧までは息を吐き、⑧から⑪までは息を吸う。これを三回くらい繰り返す。

～ワンポイントアドバイス～



腕を外に向かって思いっきり伸ばし、手のひらの労宮から気が出ていくと意識する。宇宙いっぱいに呼吸・意識・気を広げていく。連続写真の⑧で左右に腕が目一杯広がれている。その時、顔は正面を向く。視線はまっすぐ遙か彼方を見る。目の前の事象にとらわれてはいけな



地藏寺本堂



地藏寺の大師堂

合気の旅(田辺の地蔵寺)
開祖生家跡近くに地蔵寺がある。開祖が幼少期に四書五經の手ほどきを受けたという。開祖が作家の貴司山治氏に「僧籍に入れられたかたちで、藤本蜜乘和尚から四書五經を教わったが、ようわからんので、居眠りしそようになって閉口した。それよりも密教の鎮魂法やら加持祈禱がおもしろうて、見様見真似で、あらかたの修法はのみこんでしようたよ」と語っている。また、開祖は日露戦争の入営にあたって藤本和尚から護摩を授け、真言密教修法にのっとって法印を切り、允許(悟道の証明)を与えてもらっている。「明王部首位の大元帥明王を守護神として、わしの肚の中に霊移させてくださったものじゃ」と、のちに開祖は得意気に語っていたそうだ。
妻はつが「田辺に帰りたい」と言い続けていたこともあり、晩年には一年に一度くらいは墓参りのために田辺へ里帰りをするようになった。帰郷の際、地蔵寺に必ず寄り八大龍王を拝していたという。
開祖が幼少期から晩年まで通った地蔵寺は、開祖ゆかりの隠れた合気道の聖地と言ってい



【開祖の言葉】真の武道には敵はありません。真の武道とは愛の働きであります。殺す争うことではなく、すべてを生かし育てる生成化育の働きであります。愛とはすべての守り本尊であります。愛なくばすべては成り立ちません。合気の道こそ愛の現れなのであります。

「武産合気」より